

略年譜

阿部 珠理

学 歴

- 1975年3月 立教大学社会学部社会学科卒業
1982年12月 カリフォルニア大学ロスアンジェルス校大学院（UCLA）応用言語学
研究科社会言語学専攻修士課程修了
2007年1月 博士（比較文明学）（立教大学）

職 歴

- 1981年9月 UCLA大学院東洋言語学科助手（～1983年12月）
1986年4月 香蘭女子短期大学専任講師
1987年4月 香蘭女子短期大学国際教養科設置に伴う教員資格審査○合助教授認定
（文部省大学設置審議会）
1989年4月 立教大学一般教育部助教授
1991年4月 立教大学社会学部社会学科、大学院社会学研究科社会学専攻（兼任）
1995年4月 立教大学一般教育部教授
1998年4月 立教大学社会学部社会学科教授
1998年4月 立教大学大学院文学研究科比較文明学専攻前期課程設置に伴う
教員資格審査M○合教授認定（文部科学省大学設置審議会）
2000年8月 立教大学大学院文学研究科比較文明学専攻後期課程設置に伴う
教員資格審査D○合教授認定（文部科学省大学設置審議会）
2002年4月 立教大学社会学部現代文化学科教授
2006年4月 立教大学大学院社会学研究科教授
2017年3月 同上退職

所属学会（国内）

アメリカ学会（1990年～現在に至る）

評議員・国際委員（2002年6月～2004年5月）

常任理事・国際委員長（2004年6月～2010年5月）

理事（2010年6月～現在に至る）

比較文明学会（1996年～現在に至る）

編集委員（2001年10月～2005年9月）

理事・広報委員長（2005年10月～2011年9月）

副会長（2011年10月～2017年10月）

所属学会（海外）

International Society for the Study of Comparative Civilization

Board of Director（理事）（2013年6月～現在に至る）

American Studies Association

Chair, International Committee（国際委員長）（2006年6月～2009年6月）

学内役職

アメリカ研究所所長（1999年4月～2003年3月、2008年4月～2012年3月）

就職部副部長（1996年5月～1998年6月）

総合研究センター副センター長（2002年4月～2004年3月）

社会学部現代文化学科科長（2006年4月～2008年3月）

学外活動歴

スミソニアン自然史博物館客員研究員（1995年4月～1996年3月）

同志社大学一神教学際研究センター研究員（2008年4月～2016年3月）

財団法人アメリカ研究振興会評議員（2012年4月～現在に至る）

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構大学機関別認証評価委員会専門委員
（2015年5月～2017年4月）

公益財団法人浄土宗ともいき財団評議員（2013年4月～現在に至る）

業 績

【単行本】（著書・編著・共編著・共著・訳書）

単著

- 1994年11月 『アメリカ先住民の精神世界』（日本放送出版協会）
 2005年6月 『アメリカ先住民——民族再生にむけて』（角川学芸出版）
 2006年4月 『大地の声——アメリカ先住民知恵のことば』（大修館書店）
 2010年6月 『ともいきの思想——自然と生きるアメリカ先住民の「聖なる言葉」』（小学館）
 2011年10月 『アメリカ先住民から学ぶ——その歴史と思想』（日本放送出版協会）
 2014年4月 『聖なる木の下へ——アメリカインディアンの魂を求めて』（角川文庫）
 2016年10月 『メイキング・オブ・アメリカ——格差社会アメリカの成り立ち』（彩流社）

編著

- 2016年9月 『アメリカ先住民を知るための62章』阿部珠理編著（明石書店）

共編著

- 1994年1月 『ブライト英和辞典』山村三郎他との共同執筆（小学館）
 1995年2月 『見つめあう日本とアメリカ——異文化の新しい交差を求めて』阿部珠理、御堂岡潔、渡辺信二編著（南雲堂）
 2014年5月 『文明の未来——いま、あらためて比較文明学の視点から』比較文明学会30周年記念出版編集委員会編 編集代表（東海大学出版部）
 2016年6月 *Japanese Civilization in the 21st Century*. Andrew Targowski, Juri Abe and Hisanori Kato eds. (Nova Science Publishers)

共著

- 1991年6月 『児童文学世界——センダックを「読む」』関口安義他編集（中教出版）所収、「エリナー・ファージョン——情熱の行方」（pp.145-152）
 1992年6月 『児童文学世界——子どものうた』関口安義他編集（中教出版）所収、「声の共同体——アメリカ・インディアンの無文字文化とその伝承」（pp.166-180）
 1994年2月 『岡本かの子全集第2巻』（筑摩書房）所収、「かの子——天稟の豪奢」（pp.445-453）
 1995年8月 『現代俳句ハンドブック』（雄山閣出版）齋藤慎爾 [ほか] 編所収、「杉田久女」、
 「竹下しづの女」、「杉田久女句集」、「『颯』」
 1997年3月 『文学と批評のポリティクス——アメリカを読む思想』後藤昭次編著（大阪図書出版）所収、「ボカホントスあるいは神話の超克」（pp.43-57）
 1998年1月 『インディアン魂——レイム・ディーア』（河出書房新社）J・F・レイム・ディーア口述、リチャード・アードス編所収、「声の力」（pp.469-475）
 1999年3月 『21世紀アメリカの課題』（青山学院大学文学部）所収、「アメリカ先住民の文化と文学」（pp.14-25）
 2000年7月 『世界民族事典』（弘文堂）綾部恒雄他編所収、「平原インディアン」

- 2001年2月 『マイノリティは創造する』宇野邦一、野谷文昭編（せりか書房）所収、「犬でも狼でもなく——ラコタ・スー族におけるエスニック・アイデンティティの創造」（pp.179-200）
- 2002年7月 『ネイティブ・アメリカンの文学——先住民文化の変容』西村頼男、喜納育江編（ミネルヴァ書房）所収、「第3章 先住民文化再生への視座——自立と尊厳の回復に向かって」（pp.39-56）
- 2005年5月 『講座 世界の先住民族——ファースト・ピープルズの現在 07 ファースト・ピープルズの現在』綾部恒雄監修（明石書店）所収、「6 ラコタ・スー 七世代目の民族再生へ向けて」（pp.119-135）
- 2007年2月 『講座 世界の先住民族——ファースト・ピープルズの現在 10 失われる文化・失われるアイデンティティ』綾部恒雄編（明石書店）所収、「3 ラコタ・コスモロジーと精神世界の現在」（pp.58-72）
- 2007年2月 『講座 世界の先住民族——ファースト・ピープルズの現在 10 失われる文化・失われるアイデンティティ』綾部恒雄編（明石書店）所収、「12 北米先住民——セックス／ジェンダー／第三の性」（pp.188-201）
- 2007年3月 『変容するアメリカ研究のいま——文学・表象・文化をめぐって』小林憲二編（彩流社）所収、「第4部第4章 第3の性——アメリカ先住民社会におけるベルダーシュの伝統」（pp.329-343）
- 2007年11月 『文化の受容と変貌（シリーズ・アメリカ研究の越境 第6巻）』荒このみ・生井英考編著（ミネルヴァ書房）所収、「第2章 森有礼・新井奥邃のアメリカ体験と思想実践——「新生」と「共同体」をめぐって」（pp.39-62）
- 2008年3月 『国際的な人の移動と文化変容』立教大学人の移動と文化変容研究センター編（ハーベスト社）所収、「部族から民族へ——アメリカ先住民における汎インディアン意識の醸成と汎インディアン文化の創出」（pp.18-34）
- 2008年11月 『北アメリカ先住民の社会経済開発（みんぱく実践人類学シリーズ4）』岸上伸啓編著（明石書店）所収、「第2章 新しいバッファローを求めて——ラコタ・スー族の経済開発」（pp.39-68）
- 2009年6月 『高校生のための社会学——未知なる日常への冒険』高校生のための社会学編集委員会編（ハーベスト社）所収、「〈フィールド〉の歩きかた——文化・フィールドワーク・エスノグラフィー」（pp.310-321）
- 2014年7月 『夢と幻視の宗教史（下巻）』河東仁編（リトン社）所収、「ヴィジョンを求めて泣く——ラコタ・スー族における夢の啓示」（pp.31-56）
- 2015年4月 『スピリチュアリティと平和（講座スピリチュアル学第3巻）』鎌田東二編（ビーイング・ネット・プレス）所収、「戦争と平和——アメリカ先住民におけるピースメーカーリング」（pp.50-71）
- 2016年3月 『世界の名前』岩波書店辞典編集部編（岩波書店）所収、「人と人生を物語る名前——アメリカ先住民」（pp.166-168）

訳書

- 1985年4月 “*Jain : A Salacious Snake*” (Southern California Anthology)、pp.126-137（原著：中上健次『蛇淫』）
- 1986年5月 「切られた首一劇一」（勝目梓事務所上演劇台本）（原著：A Severed Head by Iris Murdock）

- 1992年6月 『聖なる輪の教え（『セブン・アローズ』第1巻）』（地湧社）（原著：Seven Arrows by Hyemeyohsts Strom）
- 1992年9月 『心の目をひらく旅（『セブン・アローズ』第2巻）』（地湧社）（原著：Seven Arrows by Hyemeyohsts Strom）
- 1992年12月 『よみがえる魂の物語（『セブン・アローズ』第3巻）』（地湧社）（原著：Seven Arrows by Hyemeyohsts Strom）
- 1995年7月 『多文化社会アメリカの歴史——別の鏡に映して』（明石書店）、富田虎雄・阿部珠理訳（原著：A Different Mirror : A History of Multicultural America by Ronald Takaki）
- 1996年1月 『エリナー・ファージョン伝——夜は明けそめた』（筑摩書房）、吉田新一・阿部珠理訳（原著：Morning Has Broken : A Biography of Eleanor Farjeon by Annabel Farjeon）
- 2001年7月 『ブラック・エルクは語る』（めるくまー）阿部珠理監訳（原著：Black Elk Speaks : Being the Life Story of a Holy Man of the Oglala Sioux by John G. Neihardt）
- 2004年1月 『文化が衝突するとき——異文化へのグローバルガイド』（南雲堂）（原著：When Cultures Collide : Managing Successfully across Cultures by Richard Lewis）
- 2010年12月 『アメリカ・インディアンの歴史——ビジュアルタイムライン』（東洋書林）（原著：The Timeline of Native Americans : The Ultimate Guide to North America's Indigenous Peoples by Greg O'Brien）

【論文】

- 1984年12月 “An Analysis of the Discourse and Syntax of Oral Complaints in Japanese : Sociolinguistic Approach” 『第23回大学英語教育学会プロシーディングス』 pp.126-133
- 1985年3月 “Measuring Sociolinguistic Variables : Influence of Sex Variable on the Complaint Discourse” 『応用社会学研究』第26号（立教大学社会学部）、pp.161-178
- 1987年1月 “The Complaint Formula” 『香蘭女子短期大学研究紀要』第29号、pp.59-78
- 1988年1月 “Lady, It's Too Late to be Making a Phone Call : An Analysis of the Conversational Event” 『香蘭女子短期大学研究紀要』第30号、pp.73-86
- 1989年1月 「苦情文のレトリック」 『香蘭女子短期大学研究紀要』第31号、pp.157-164
- 1992年3月 “Portrayal of Women in American Television Commercials and Magazine Advertisements” 『英米文学』第52号（立教大学文学部）、pp.9-28
- 1996年11月 「「アメリカ」から「アメリカ」へ」月刊『言語』（大修館書店）、pp.2-13
- 1998年2月 「アメリカ先住民と「アメリカ」——接触・抗争から征服をへて、共存へ」『英語教育』第46巻第12号、pp.11-24
- 2000年3月 「作られる「インディアン」——「高貴なる野蛮人」の系譜」『聖徳大学言語文化研究所論叢』第7号、pp.305-321
- 2003年3月 「アメリカ・インディアン・アイデンティティと文化創造——汎インディアン運動を中心に」『立教アメリカン・スタディーズ』第25号（立教大学アメリカ研究所）、pp.71-88
- 2003年3月 「環境とマイノリティ——先住民族の知恵に学ぶ」『応用社会学研究』第45号

- (立教大学社会学部)、pp.17-23
- 2007年3月 “It Is a Good Day to Die : Native American Warrior Tradition and American Wars” 『立教アメリカン・スタディーズ』第29号(立教大学アメリカ研究所)、pp.54-69
- 2007年3月 “A Review of Literature and Trends in Native North American Studies in Japan” Juri Abe and Atsunori Ito, *Japanese Review of Cultural Anthropology* Vol.8 (Japanese Society of Ethnology), pp.137-170
- 2009年4月 「ラコタ・スー族——伝統再生への道程」『季刊民族学』第33巻第2号(国立民族学博物館・千里文化財団)、pp.51-66
- 2009年5月 「アメリカ先住民の精神文化——循環と調和の思想」『世界平和研究』2009春季号(通巻181号)(世界平和教授アカデミー)、pp.18-27
- 2011年3月 “Fighting a White Man's War : Participation and Representation of the Native American during WWII” 『立教アメリカン・スタディーズ』第33号(立教大学アメリカ研究所)、pp.129-145
- 2011年9月 「ウォ・ラコタ——アメリカ先住民社会における伝統の継承と実践」『宗教研究』第85巻第2号(日本宗教学会)、pp.237-264
- 2017年2月 「明治近代化とオヤトイ外国人」『境界を越えて——比較文明学の現在』第17号(立教比較文明学会)、pp.11-29

【評論等】

- 1988年8月 「語り手と行為主体者の距離」毎日新聞文化欄
- 1990年4月 「どこへ消えた都市の「間」」毎日新聞文化欄
- 1990年7月 吉田新一監修『ピーターラビットからの手紙』書評(季刊『立教』第134号)
- 1991年11月 「クリスマス——良き魂の物語」『児童文学世界』(中教出版)
- 1992年4月 「異文化を活かす」季刊『め』
- 1992年9月 「『聖なる輪』に導かれて」月刊『現代』(講談社)
- 1992年12月 「ことばとコミュニケーション」『るんびにい』
- 1993年5月 「『雪国』へ——日本語を教えながら考えたこと」季刊『立教』第145号
- 1993年5月 復本一郎著『芭蕉俳句16のキーワード』書評、『国際経営論集』第5号(神奈川大学経営学部)
- 1993年8月 ディーン・フォークナー・ウェルズ著、原川恭一訳『ローアン・オーク邸のゆうれい』書評(季刊『立教』第146号)
- 1993年8月 「サンダンスへの遠い道——アメリカ先住民・その失われた世界」『西日本新聞』連載18回
- 第1回 「祈りの丘」(1993年8月5日)
- 第2回 「インディアン・タイム」(1993年8月6日)
- 第3回 「ラコタ流もてなし——相手に与え尽くす」(1993年8月7日)
- 第4回 「知恵と思想」(1993年8月10日)
- 第5回 「互助の精神」(1993年8月11日)
- 第6回 「ラコタ流民主主義」(1993年8月12日)
- 第7回 「先住民から学ぶ」(1993年8月13日)
- 第8回 「宴の後」(1993年8月17日)
- 第9回 「失われた調和の世界」(1993年8月18日)

- 第10回 「墮落」(1993年8月19日)
- 第11回 「現代風ラコタ・ウェイ」(1993年8月20日)
- 第12回 「よみがえる魂の光明」(1993年8月21日)
- 第13回 「聖なる過酷な踊り」(1993年8月24日)
- 第14回 「メディスン・マン、クロー・ドッグ」(1993年8月25日)
- 第15回 「啓示求める旅」(1993年8月26日)
- 第16回 「浄化の儀式」(1993年8月27日)
- 第17回 「パイプの儀式」(1993年8月28日)
- 第18回 「聖なる輪」(1993年8月31日)
- 1993年9月 「セブンアローズ」季刊『読書のいずみ』第56号
- 1994年7月 「ラコタ・ウェイと神の道」月刊『湧』第12巻第7号(地湧社)
- 1994年11月 藤井淑禎著『純愛の精神誌——昭和三十年代の青春を読む』書評(季刊『立教』第151号)
- 1996年8月 「五十年の流れの一さざ波として」季刊『立教』第158号
- 1996年10月 「彼らは年寄りではない——アメリカ先住民ラコタ族の高齢者たち」『シルバーサービス』第33号(社団法人シルバーサービス振興会)
- 1996年10月 「隠されたアメリカ——アメリカ先住民ラコタ・スー族の世界から」『公明新聞』連載20回(1997年4月13日まで)
- 第1回 「ワシントンにて——多種多様な民族が集う町」(1996年10月13日)
- 第2回 「インディアン・ファイター——先住民の“負”の歴史象徴」(1996年10月20日)
- 第3回 「ボカホンタス(上)——インディアン・プリンセス」(1996年10月27日)
- 第4回 「ボカホンタス(下)——作られた友好のシンボル」(1996年11月10日)
- 第5回 「インディアン趣味——「高貴な野蛮人」の系譜」(1996年11月17日)
- 第6回 「インディアン」のステレオ・タイプ——「血に飢えた野蛮人」のイメージ」(1996年11月24日)
- 第7回 「コロンプスの「インディアン」——ステレオ・タイプの種子」(1996年12月8日)
- 第8回 「シェイクスピアの「インディアン」——“野卑で無教養”を強調」(1996年12月15日)
- 第9回 「2つのアメリカ——真の「アメリカの遺産」とは」(1996年12月22日)
- 第10回 「ラコタ事始め——先住民文化の伝統と英知」(1997年1月12日)
- 第11回 「伝統と現実——「貧困と荒廃」漂う保留地」(1997年1月19日)
- 第12回 「ムニ・ワカン——不思議な水——惨めさを忘れるための飲酒」(1997年1月26日)
- 第13回 「コモディティ・ブルース——配給食が生む肥満」(1997年2月9日)
- 第14回 「ラコタの子ども達——日本への果てしない好奇心」(1997年2月16日)

- 第15回 「ラコタの家族像 その1——グラン・パーとともに」(1997年2月23日)
- 第16回 「ラコタの家族像 その2——ティオシパエ」(1997年3月9日)
- 第17回 「ウイエスベ=与え尽くし——寛大の精神が生み出す」(1997年3月16日)
- 第18回 「メディスン・マン——癒しの能力を持つ人」(1997年3月23日)
- 第19回 「メディスン・マンの癒し——心の病から喧嘩の仲裁まで」(1997年3月30日)
- 第20回 「ラコタの明日——微笑む子らがいる限りは……」(1997年4月13日)
- 1996年12月 「イーグル・メディスン——アメリカ先住民ラコタの鷲」『お守り動物園』(INAX BOOKLET)
- 1997年2月 「私の「日本回帰」」『英語通信』第14号(大修館書店)
- 1997年7月 「「言葉の呪縛」を生きるアメリカ」毎日新聞文化欄(1997年7月2日)
- 1997年7月 「私の一句・精神分析」『俳句・深層のコスモロジー (Series俳句世界 5)』(雄山閣出版)
- 1997年10月 リチャード・M・ドーソン著『語りつながれるアメリカ』書評、東京新聞(1997年10月26日)
- 1999年8月 デイヴィッド・グラッドル著『英語の未来』、デイヴィッド・クリスタル著『地球語としての英語』書評、『英語展望』第106号(財団法人英語教育協議館出版部)
- 2000年6月 「宿題俳句」『俳句朝日』(朝日新聞社)
- 2001年1月 「グラビア フィッシャーマン アラビア海の落日」『世界』第683号(岩波書店)
- 2001年9月 「野津元帥を知っていますか 米先住民の英雄に惹かれ辺境へ」朝日新聞文化欄(2001年9月25日)
- 2001年10月 「山桜桃ワールド」『フェアリーランド——山桜桃 創作人形写真集』(新風舎)
- 2002年3月 「アメリカ先住民の昨日・今日・明日」『社会人のための英語百科』(大修館書店)
- 2002年5月 「教育から学びへ、mustからwantの英語へ向けて」『英語教育Fifty』(大修館書店)
- 2003年2月 「民族多様性 反戦の力に」共同通信配信記事
- 2003年4月 「ボブと／æpl／と」『英語教育』第52巻第1号(大修館書店)
- 2003年8月 「夏だ、祭りだ、パウワウだ！」『英語教育』第52巻第5号(大修館書店)
- 2003年11月 「〈アメリカ先住民に学ぶ〉善く生きることを、死者に誓う」『清流』第10巻第11号(清流出版)
- 2004年1月 「大地の声——ネイティヴ・アメリカンの智慧の言葉」『英語教育』連載21回(2005年9月まで)(大修館書店)
- 第1回 「ネイティヴ・アメリカンの死生観」第52巻第11号(2004年1月)
- 第2回 「先住民社会の老人の位置」第52巻第12号(2004年2月)
- 第3回 「先住民社会の子育て」第52巻第13号(2004年3月)
- 第4回 「自立の重要性について」第53巻第1号(2004年4月)
- 第5回 「女性の地位」第53巻第2号(2004年5月)
- 第6回 「個性について」第53巻第3号(2004年6月)
- 第7回 「ものの所有について」第53巻第4号(2004年7月)

- 第8回 「先住民が与えてくれたもの」第53巻第5号(2004年8月)
 第9回 「血縁も種族も超えた繋がり」第53巻第6号(2004年9月)
 第10回 「夢の啓示」第53巻第7号(2004年10月)
 第11回 「自然観」第53巻第9号(2004年11月)
 第12回 「沈黙と雄弁」第53巻第10号(2004年12月)
 第13回 「もてなしの精神」第53巻第11号(2005年1月)
 第14回 「時間感覚」第53巻第12号(2005年2月)
 第15回 「聖なる輪」第53巻第13号(2005年3月)
 第16回 「シャイアン族の民話 前編」第54巻第1号(2005年4月)
 第17回 「シャイアン族の民話 後編」第54巻第2号(2005年5月)
 第18回 「クリーク族の民話」第54巻第3号(2005年6月)
 第19回 「スー族の民話」第54巻第4号(2005年7月)
 第20回 「ラコタ族の民話」第54巻第5号(2005年8月)
 第21回 「スー族の神話」第54巻第6号(2005年9月)
- 2004年5月 「根深い人種主義 米兵のイラク人虐待」共同通信配信記事
 2005年3月 「名前は語る——アメリカ先住民の名づけ」『言語』第34巻第3号(大修館書店)
 2005年3月 保莉実著『ラディカル・オーラル・ヒストリー——オーストラリア先住民アボリジニの歴史実践』書評、『神奈川大学評論』第50号
 2005年10月 「著者と語る肖像 阿部珠理著『アメリカ先住民：民族再生にむけて』」『SAPIO』(小学館)
 2005年11月 復本一郎著『俳句とエロス』書評、『国際経営論集』第30号(神奈川大学経営学部)
 2006年5月 多原香里著『先住民族アイヌ』書評、『SAPIO』(小学館)
 2006年8月 「あの夏の日」『英語教育』第55巻第5号(大修館書店)
 2006年9月 「アメリカ先住民のロックアート——文字をもたない民族が岩に残した芸術」『Newton』第26巻第9号(ニュートンプレス)
 2006年9月 青い炎——日下部太郎 アメリカの千日」月刊『言語』第35巻第9号(大修館書店)
 2007年1月 「母語と国語のはざままで——インディアン同化教育の悲劇と言語復興」月刊『言語』第36巻第1号(大修館書店)
 2008年8月 「私のフィールドノートから(20)ラコタ語」月刊『言語』第37巻第8号(大修館書店)
 2009年4月 「先住民族のうた・こころ(アメリカ先住民)」『婦人之友』連載3回(2009年6月まで)(婦人之友社)
 「第1回 夜明けの歌/空のはた織り機の歌」第103巻第4号(2009年4月)
 「第2回 イクトミが間違っ妻と寝た話」第103巻第5号(2009年5月)
 「第3回 ブラック・ヒルズの大レース」第103巻第6号(2009年6月)
 2010年3月 「アメリカ先住民の「豊穰なる貧困」」『サビオ』連載5回(2010年6月まで)(小学館)
 第1回 「足りることになっている」第22巻第5号(2010年3月)
 第2回 「太鼓が来れば」第22巻第6号(2010年4月)
 第3回 「死ぬにはいい日」第22巻第7号(2010年5月)
 第4回 「ケチは泥棒より悪い」第22巻第8号(2010年5月)

- 第5回 「必要なものは自然とやって来る」第22巻第9号(2010年6月)
- 2011年3月 「Better Red than Dead——アメリカ・インディアンの若者のアクティヴィズム」『日本社会と社会学部の50年』(立教大学社会学部)
- 2011年3月 「アメリカ先住民の聖地と精神になぜ現代人はひかれるのか」『宗教と現代がわかる本 2011』(平凡社)
- 2011年7月 「玄洋社の精神」西日本新聞学芸欄(2011年7月16日)
- 2013年1月 「「ともいき」の文明は可能か」『比較文明学会会報』第58号
- 2014年3月 「私に繋がるすべてのもの——アメリカ先住民の共生の思想」『月刊MOKU』第264号(MOKU出版)
- 2014年5月 「ウンディッド・ニー 『RED』から読み解くアメリカの歴史」『新装版 RED』第1巻(村枝賢一著、講談社)
- 2014年5月 「ワイルド・ウェストと巡回牧師」『新装版 RED』第2巻(村枝賢一著、講談社)
- 2014年7月 「レッド、ホワイト、ブラック、イエロー——人種関係で読むアメリカ」『新装版 RED』第3巻(村枝賢一著、講談社)
- 2014年8月 「空に太陽があるかぎり——大平原の秘儀サンダンス」『新装版 RED』第4巻(村枝賢一著、講談社)
- 2014年9月 「ワイルド・ウェスト アウトロー伝説」『新装版 RED』第5巻(村枝賢一著、講談社)
- 2014年11月 「黒服・ピューリタン・寄宿学校——アメリカ先住民とキリスト教」『新装版 RED』第7巻(村枝賢一著、講談社)
- 2014年12月 「ワイルド・ウェスト・ショーとインディアン」『新装版 RED』第8巻(村枝賢一著、講談社)
- 2015年1月 「南北戦争とインディアン」『新装版 RED』第9巻(村枝賢一著、講談社)
- 2015年2月 「繋がる命の輪」『新装版 RED』第10巻(村枝賢一著、講談社)
- 2016年12月 野口久美子著『カリフォルニア先住民の歴史——「見えざる民」から「連邦承認部族」へ』書評、『史苑』第77巻第1号(立教大学文学部)

【調査報告等】

- 2003年10月 『日本の大学教育における異文化教育実現のための教授法及び教材研究』(研究課題番号:12610289)平成12年度~平成14年度科学研究費補助金(基盤(C)(2))研究成果報告書
- 2005年7月 *Studies on Human Migration and Acculturation: Proceedings of the Symposium.* Published by Centre for Human Migration and Acculturation Studies, Rikkyo University.
- 2006年3月 『親・子の移動のグローバル化と市民権の国際比較』(研究課題番号:15402038)平成15年度~平成17年度科学研究費補助金(基盤(B)(2))研究成果報告書。担当執筆箇所「アメリカ先住民教育と言語維持の試み——保留地コミュニティを中心に」(pp.16-25)
- 2007年9月 International Symposium on the Human Migration and Acculturation in the Pacific Rim. Published by Centre for Human Migration and Acculturation Studies, Rikkyo University. "From Tribal to Pan-Indian Identity: Generation of Native American Identity and Culture" pp.47-53.

- 2007年9月 『環太平洋地域における人の移動と文化変容』立教大学人の移動と文化変容研究センター編。担当執筆箇所「部族から民族へ——アメリカ先住民における汎インディアン意識の醸成と汎インディアン文化の創出」(pp.15-26)

【科学研究費】

- 1998年4月 研究分担者「アメリカの文化表象と多文化主義」(研究課題番号:10410113) 1998年度~2000年度科学研究費(基盤研究(B))
- 1998年4月 研究分担者「NGO(民間公益団体)と大学とのパートナーシップの可能性」(研究課題番号:10871045) 1998年度~1999年度科学研究費(萌芽的研究)
- 1998年4月 研究代表者「アメリカ合衆国連邦政府との関係に現れたラコタ族の民族としての特質に関する研究」(研究課題番号:10871051) 1998年度~1999年度科学研究費(萌芽的研究)
- 1999年4月 研究分担者「日本におけるカルチャー・マネジメントの現状と展望」(研究課題番号:11410063) 1999年度~2001年度科学研究費(基盤研究(B))
- 2000年4月 研究代表者「日本の大学教育における異文化教育実現のための教授法及び教材研究」(研究課題番号:12610289) 2000年度~2002年度科学研究費(基盤研究(C))
- 2003年4月 研究分担者「親・子の移動のグローバル化と市民権の国際比較」(研究課題番号:15402038) 2003年度~2005年度科学研究費(基盤研究(B))
- 2010年4月 研究代表者「アメリカ先住民の文化再生運動および共同体再生における部族大学の役割と意義」(研究課題番号:22510277) 2010年度~2013年度科学研究費(基盤研究(C))

【発表等】

□頭発表

- 1982年4月 “Discourse Analysis of Complaints Made by Native Japanese” (The Annual TELL Colloquium at UCLA)
- 1984年10月 “An Analysis of Discourse and Syntax of Oral Complaints in Japanese” (第23回大学英語教育学会全国大会、於上智大学)
- 1988年7月 “Cohesive Patterns in Complaint Letters” (第14回言語科学研究会全国大会、於国際基督教大学)
- 1990年12月 “Portrayal of Women in American Television Commercials and Magazine Advertisements” (立教大学英米文学会)
- 2002年6月 “It is a Good Day to Die: Native American Warrior Tradition Incorporated into American Wars and Citizenship” (第36回アメリカ学会年次大会、於明治大学)
- 2002年10月 “Native American Identity From Tribal to Pan-Indian Identity” (The 37th American Studies Association in Korea、於ソウル市梨花女子大学)
- 2002年11月 「アメリカ・インディアン・アイデンティティと文化創造」(立教大学アメリカ研究所主催シンポジウム「マイノリティと文化創造」)
- 2004年6月 「アメリカ先住民におけるネイティブ・アイデンティティの受容と創造」(アメリカ学会第38回年次大会、於日本女子大学)

- 2004年10月 「先住民環境思想と21世紀文明への貢献——アメリカ環境思想史、ニューエイジムーブメントを視座に」(比較文明学会第22回年次大会、於北九州市立大学)
- 2007年7月 “From Tribal to Pan-Indian Identity: Generation of Native American Identity and Culture” (Symposium on Human Migration and Acculturation in the Pacific Rim at Rikkyo University)
- 2008年3月 “Native American Studies in Global Context : The Japanese Perspective” (Organization of American Historians 2008 Annual Meeting at New York City)
- 2008年10月 「アメリカにおける文明の相克と森の思想の復権」(比較文明学会第26回大会、於山形大学)
- 2010年6月 “Fighting a White Man's War: Participation and Representation of the Native American during WWII” (第44回アメリカ学会年次大会、於大阪大学)
- 2011年10月 “Contributions of Scholarship in Time of Disaster” (American Studies Association 2011 Annual Conference in Baltimore, MD)
- 2012年6月 「アメリカ先住民文化復興の現在——ラコタ・スー族の事例を中心に」(第46回アメリカ学会年次大会、於名古屋大学)
- 2013年6月 “When East Meets West I” (43th Annual Conference of International Society for the Comparative Study of Civilization, Carmel, CA)
- 2014年6月 “When East Meets West II” (44th Annual Conference of International Society for the Comparative Study of Civilization, Monmouth University, West Long Branch, NJ)
- 2015年1月 「協働の思想におけるヴァイン・デロリア・ジュニアの影響」(国立民族学博物館先住民部会)
- 2015年6月 “The Role of Foreign Teachers and Advisors in Modernizing Meiji Japan” (45th Annual Conference of the International Society for the Comparative Study for Civilizations, Rio de Janeiro, Brazil)
- 2016年6月 “Making of Modern Japan and Western Civilization” (46th Annual Conference of International Society for the Comparative Study of Civilization, Monmouth University, West Long Branch, NJ)

招待講演・コメンテーター

- 1991年11月 「言葉・コミュニケーション」(松戸市教育委員会)
- 1993年6月 「日本文化から見たアメリカ先住民」(国際交流基金日本語国際センター)
- 1993年10月 「異文化とのコミュニケーション」(福岡市福岡女性センター文化講演会)
- 1994年3月 「民族と国家」(足利市教育委員会地球市民講座)
- 1995年1月 「アメリカ先住民と文化変容」(足利市教育委員会人権セミナー)
- 1997年2月 「アメリカ先住民の精神世界」(渋谷区立図書館)
- 1997年10月 「Native Americanの自然観をめぐって——スー族の宗教と社会」(文学・環境学会第3回全国大会、於慶應義塾大学)
- 1998年6月 「合衆国とアメリカ先住民」(日本時事英語学会第44回大会、於日大会館)
- 1998年11月 「先住アメリカ人の文化と文学」(青山学院大学連続公開講演会)
- 1998年11月 「作られたインディアン」(聖徳大学総合研究所)
- 1998年12月 「アメリカ先住民の精神世界」(国際ロータリークラブ地区大会)

- 1999年12月 「北米先住民の精神世界」(朝日カルチャーセンター世界の歴史と文化コース)
- 2003年5月 「アメリカ先住民の社会と文化」(たばこ総合研究センター)
- 2004年6月 「アメリカ先住民の精神世界」(黒滝山市民大学)
- 2005年3月 コメンテーター「伝統文化・先住民文化の危機と現代人の霊性」(第19回国際宗教学宗教史会議世界大会、於高輪プリンスホテル)
- 2006年3月 コメンテーター「ジェノサイド研究から見たネイティブ・アメリカンの歴史」(日本学術振興会「人文・社会科学振興プロジェクト研究事業」領域 II-1「平和構築」主催国際シンポジウム「暴力／ジェノサイドの記憶——平和構築過程におけるその意味」、於東京大学)
- 2006年11月 「比較文明の視点から見たアメリカ先住民」(麗澤大学比較文明文化研究センター主催2006年度講演会)
- 2006年12月 「アメリカ先住民——文化再生への視座」(第7回多民族研究学会(MESA)全国大会、於駒沢大学)
- 2007年10月 “Taro Kusakabe’s 1000 days in New Brunswick” *A Moment of Contact—Japanese Students at Rutgers, Rutgers University*
- 2007年1月 「南北アメリカ先住民の世界」(立教大学アメリカ研究所主催シンポジウム)
- 2008年7月 「インディアン研究の歴史、現状そして課題」(同志社大学アメリカ研究所)
- 2011年5月～7月 NHKラジオ講座 「アメリカ先住民の歴史、文化、社会」
- 2011年11月 「アメリカ先住民は蘇れるか——ラコタ・スー族の経済・社会・教育開発をめぐる」(大阪経済大学日本経済史研究所 第9回秋季学術講演会)
- 2012年12月 「ラコタ・スー族——社会・経済開発への道程」(第44回比較文明学会九州支部研究会、於西南学院大学)
- 2013年3月 「森の思想——アメリカ先住民の生態智」(国士舘大学生涯学習センター主催第2回特別講演「破壊と環境」)
- 2013年7月 コメンテーター「アメリカ合衆国における「人種」と「エスニシティ」の再考」(アメリカ学会アメリカ研究夏期セミナー、於同志社大学)
- 2013年12月 「森の思想——アメリカ先住民の生態智」(英語圏文化文学研究会第4回研究大会、於松山大学)
- 2014年11月 「知られざる日米文化交流史 ～遣米留学生の群像～」全7回(2014年12月まで)(Jシニアーズアカデミー)
- 2016年6月 「メイキング・オブ・アメリカ」全7回(2016年7月まで)(Jシニアーズアカデミー)
- 2017年10月 コメンテーター「東アジアの近代とアメリカ留学」(慶應義塾福澤研究センター主催シンポジウム)
- 2017年10月 「<戦い>の変容——先住民社会と西洋文明の遭遇を通して」公開シンポジウム「文明と暴力」(第35回比較文明学会大会、於東海大学)
- 2017年11月 「現代アメリカ神話」『書物と知 II』(NPO東京自由大学)